

来年 4 月から消費税が 5 % に引き上げられることが正式に決まりました。電気やガス、ガソリンなどはそのまま上乘せ、公衆電話は 2 % の時間短縮、銀行でも他行からの引き落とし手数料などが上がる見込みです。子供の医療費は税金で出してもらっているとはいえ、病気の子を抱えていれば病院への交通費やおもちゃ代、ジュース代など日々の財布への負担は大きいものになります。

一方で来年 4 月には病院近くの静清バイパスが計画から 20 年ぶりに開通して便利になります。

苦しくも、便利にもなる 97 年。

生活環境は変わろうと子供の笑顔があれば幸せ気分。

波乱の 1 年が過ぎ去ろうとする今、迎える年が笑顔であふれることを願わずにはられません。

< 第 18 回 ほほえみの会 >

師走に入って忙しい中医師、看護婦を含め 10 人が参加しました。

治療を続ける内に食欲も落ちやせてきた。今後治療を続けるのに体力が持つか心配、また治療を続ける内に白血球が上がらなくなり徐々に体力が落ちているのがわかる、との治療に対する心配の声がありました。

堀越先生からは本人の状況を観察し、薬の量とかは多くの経験の中で入れているので安心してほしいとのことでした。

又食欲のない時には、何でも食べたいものを食べさせる。医学的ではないが子供にとってはすべて栄養になるとのことです。

この他子供の食べ物については、ほかの親からもいくつか体験談ができました。

予防接種についても話ができました。

兄弟が病気になったとき、予防接種をしていない病気の子と一緒にいていいものか。

また、予防接種をしたがその後骨髄移植をした。再度接種が必要だろうか、などです。

骨髄移植の場合、他人からの移植では残る。末梢血の場合はもう少し残るだろう。何れにしても抗体検査をした方がいいとのことです。

病棟内の雰囲気は明るくなっているようです。

数年前に比べ病気の治癒率が数段上がっていることから、全体に病棟の雰囲気が明るいようです。

また子供に病名告知も進めており、子供たち自身の病気に対する苦しみや葛藤に対し、母親や看護婦が励ましていく形がうまくいっているようです。

また堀越先生からは面会時間後の子供たちのストレス解消のために夜遊んだり、散歩したりしているが限界もある。もっと子供たちと遊んであげたいし、親とも話をしたいというお話がありました。

退院後、小学校で病気から髪が薄くいじめられるケースもあります。そんな時には学校にすぐに相談した方がいいようです。学校では心臓病の子や足を骨折した子がいれば教室を 1 階に移すようなことしてくれるそうで、弱い子への思いやりを学校全体で考えてくれるようです。

「のぞみ財団」で「発病後日の浅い患児のご家族へ」という冊子を発行しました。ご希望の方はご連絡下さい。

～ みなさん良いお年をお迎え下さい～

次回は 1 月 12 日（日）12 時から、新館 3 階です

ほほえみの会 代表 池田恵一